

事業報告

平成21年度（平成21年4月1日から平成22年3月31日まで）の事業の概況についてご報告申し上げます。

当期の日本経済は、平成20年度からはじまった世界同時不況の影響が残り、企業の経営環境はこれまでにない厳しい1年となりました。しかし、年度後半には徐々に景気回復への兆しが見え始めておりますが、個人消費については引き続き低迷が続き、とりわけ、名古屋地域の観光やサービス事業においては一段と厳しさが増していると言えます。

このような経営環境のもと、当社では名古屋テレビ塔の新しい魅力を生み出すべき久屋大通公園と「恋人の聖地」を活かした新しい独自イベント、名古屋港水族館・名古屋城など他施設との共同イベントの開催などにより、お客様サービスの充実を図るとともに財務体質の改善など確実な再建計画を進めてきました。また、アナログテレビジョン放送の休止に向けた「新タワー」の基本構想づくりのため、愛知県、名古屋市、放送事業者などとの検討を進めてきました。

この結果、当期における有料入場人員は227,107人（前年に比べ2.6%減）、また、無料を含む総入場者人員は277,343人（前年に比べ2.9%減）となりました。これにより、当期における売上高合計は292,207千円（前年に比べ3.3%減）、販売費及び一般管理費合計は247,767千円（前年に比べ6.2%増）となりました。したがって、営業利益は44,440千円（前年に比べ35.6%減）となり、当期純利益は27,325千円（前年に比べ59.9%減）となりました。

平成22年度事業は、いよいよ1年後に迫ったアナログテレビジョン放送の休止に向けた「新タワー」への取り組みが正念場を迎えます。56年前に愛知県・名古屋市、放送事業者ならびに地元財界などが総力をあげて誕生しました名古屋テレビ塔。半世紀経って戦後復興から経済復興を背に再び21世紀に活躍する「新タワー」として名古屋市からの許認可を含む基本計画の策定、さらに総合整備にあたっての基本・実施設計の策定などをめざしています。

引き続き、アナログテレビジョン放送電波の安定確保に努めるとともに「新タワー」づくりに向け、役職員一同全力をあげる決意でございます。

株主の皆様には、誠に心苦しい限りでございますが、前期に引き続き今期も無配とさせて頂きまのでご理解の上、ご承認を賜りますようお願い申し上げます。